

昇級試験審査概要

第一部 六段以上（三月号の段位）

五名の審査員による合同審査

準推薦は四〇〇点満点中三九九点で推薦に合格

推薦格は三九〇点満点中三八八点（平均点七八点以上）で

準推薦に合格

正教授以下の段位では合格点に達した者は一階級、審査員

全員が合格点を与えた者は二階級昇格

* 六段格以下の者も受験可（受験料は第一部料金）

各部門分担当審査

優秀作品は最高三階級昇格

第二部 六段格以下（三月号の段級）

第三部 初段格以下（ 〃 ）

五名の審査員による分担当審査

優秀作品は最高三階級昇格

* 第二部は初段格以下の受験可（受験料は第二部料金）

毎月競書を出品している方は是非受験して下さい。

手本・添削希望者は書道会事務局へお申込下さい。

その他の事項は裏表紙の昇試規定を参照の事。

半紙課題（予告）（十月二十二日締切）

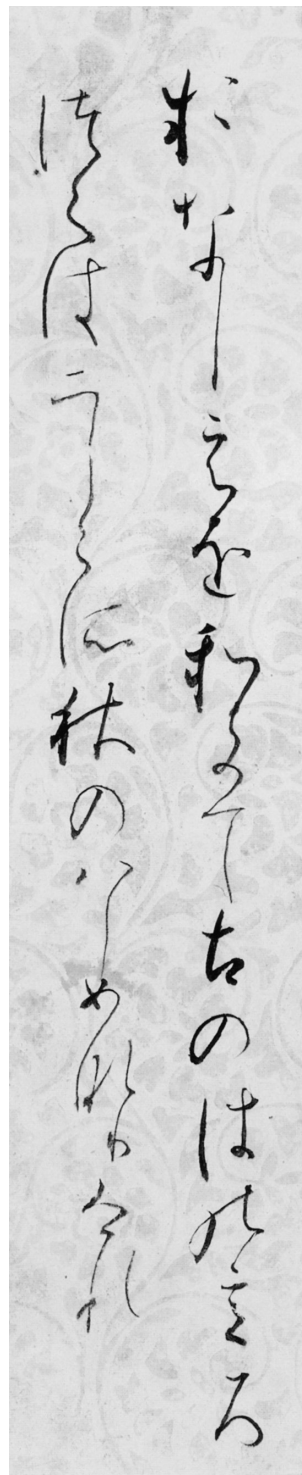
平岡華雪先生書
道を治むるには玄黙を尚ぶ（耶律楚材）

治道尚
玄黙

訳：道をおさめ修業するには、沈静が大切である。

平岡華雪先生書 おくられつおくりつ果は木曾の秋（芭蕉）

おくられつおくりつ果は木曾の秋



昇試随意参考として
於^和おなじえをわきてこ^古のほ^能のいろづ^徒くはに^二しこそ^所秋^八のはじめ^那なり^利けれ

※昇試随意参考（半紙・条幅）としてご活用下さい。抜粹可。

一字書（九月二十二日締切）

課題

鳳

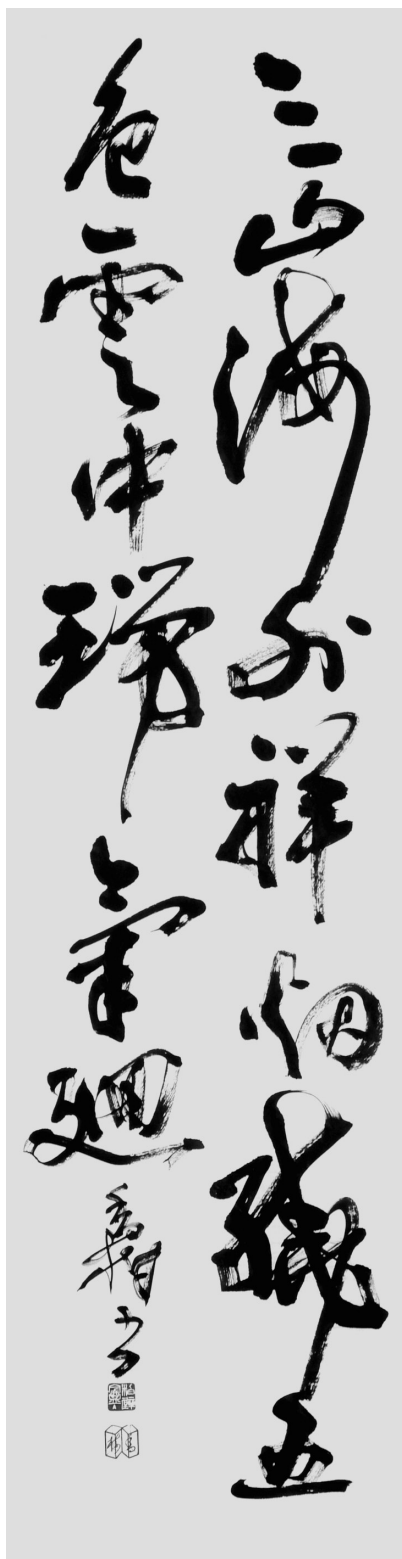
- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
一字と記入 段級は無記入

今月は昇試課題発表月ですが「一字書」は出品出来ず。推薦取得者始め多くの会員のチャレンジを期待しています。

A

高橋香樹会長書

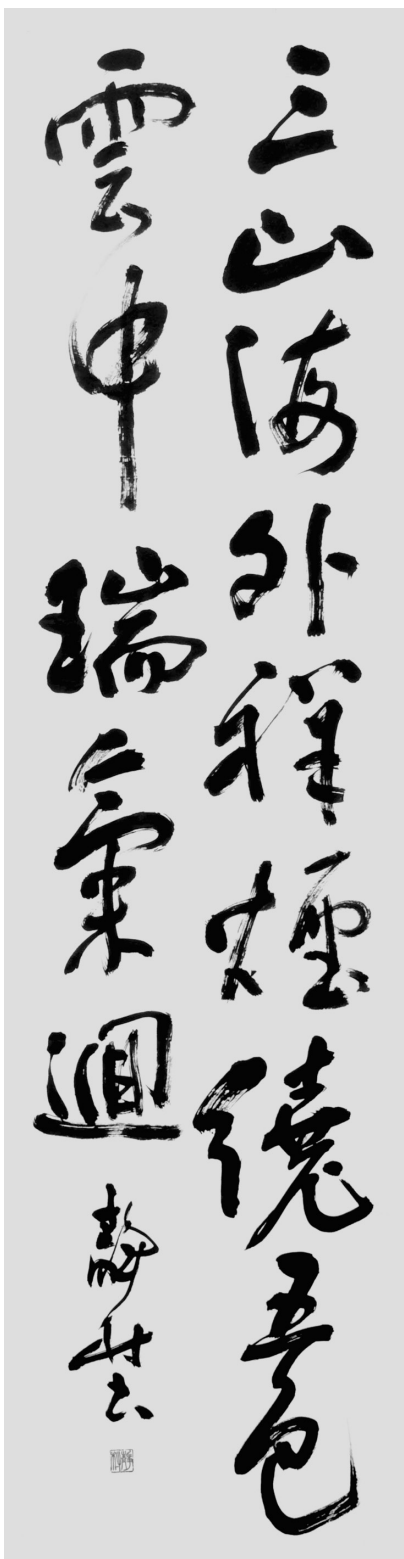
三山海外祥煙繞 五色雲中瑞氣廻 (廖道南)
三山海外祥煙繞り、五色雲中瑞氣廻る。



B

鈴木静村先生書

文字の大小・行の流れを意識した作としました。「三」は右に移動。「山・海」と左へ「海」の収筆を延ばし、余白を大きくとる。「煙」は小さく右へ。「繞」で横幅をとる。二行目の「雲・瑞・気・廻」は、一行目のあいている所に横画を出すと行った行の出入りにも意を用いたい。墨継ぎは「繞」と「瑞」。



三 一、二画ツンツンと突き筆。煙 煙・烟 どちらでも可。繞 墨継ぎ。末画点なくとも可。雲 冠は大きめ。中 渴筆になるも線に強さ。瑞 墨継ぎ。廻 「延繞」を「之繞」で書くことが多い。潤濁・太細・遅速など織り交せて、「自分」を打ち出して。

訳：海上にあるという三神山には、めだたい雲がたなびき、五彩の雲のたなびく処にもまためでたい気がめぐっている。

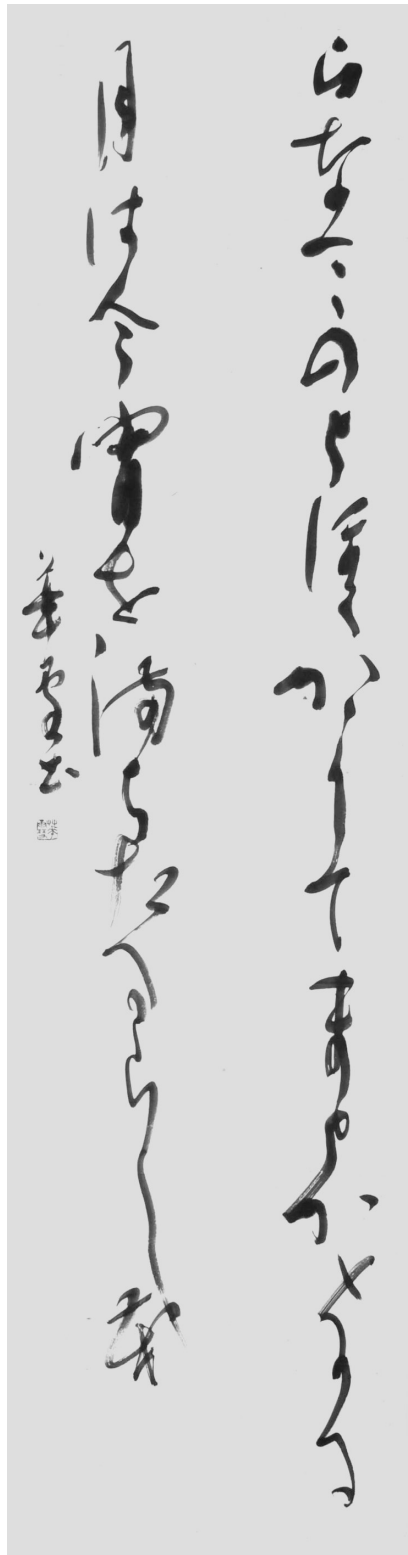
予告 (十月二十二日締切) 景物自隨幽意得 世情渾與此心違 (陳留)

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

A

平岡華雪先生書

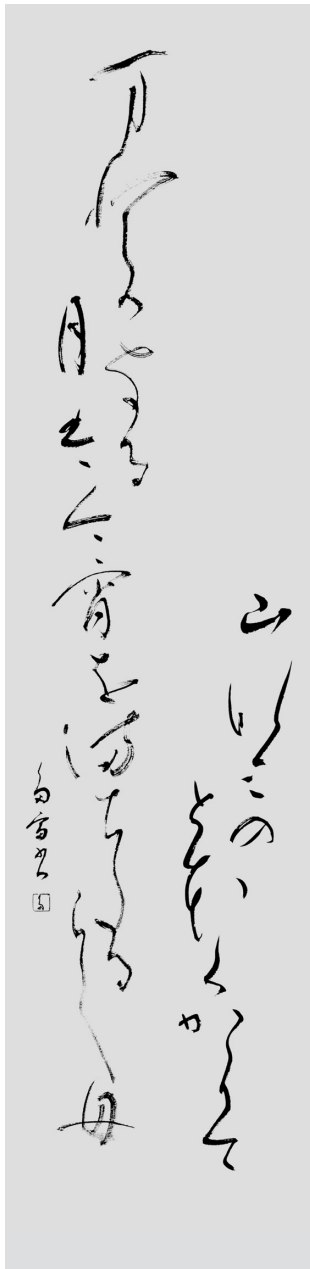
山脈やまなみのとほくかかりてまどかなる月は今宵を満ちたるらしも(松村英一)
山やまな三みつのとほくか、りてまどかなる月は今宵を満ちたるらし茂も



B

森多富先生書

山那三やまなみつのと本久ほんくかゝりて万登まんとく可奈かなる月盤げん今宵を満ち多たるらし母も



松村英一は、明治二十二年生まれの歌人。窪田空穂に師事。滋味あふれる作品を多く残す。秋の夜の情景が浮かぶ風雅な趣の歌。本来、自詠で作品ができたら最高ですが、他人の歌での作品づくりであっても歌意を汲み取り、感じたものが表現できる心がけたいものです。

学び方

今月の華雪先生の作品は、短い連綿線を多用して、たての流れが自然な形で表現されています。流れだけを意識すると変化が乏しいものになりますが、開閉・文字の大小・墨量・速度等、色々考慮された作品だと思えます。
B作品は、今回多行書きで構成しました。うるさく見えない様に配置に気を付けました。三行目の渴筆部分は大きく書いて動きを出し、後半は、右部と左部が相対して収束するよう試みました。
皆さんも創作作品で、日頃の成果を発揮し色々な事に挑戦して下さい。

予告 (十月二十二日締切)

むすぶ手に影みだれゆく山の井のあかでも月のかたぶぎにける (新古今和歌集)

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

高橋紫芳先生書

乘興即為家(杜甫)
興きょうに乗じてじょうは即ちすなわ家と為さんいえ

乘興即為家
乘興即為家
乘興即為家

紫芳書

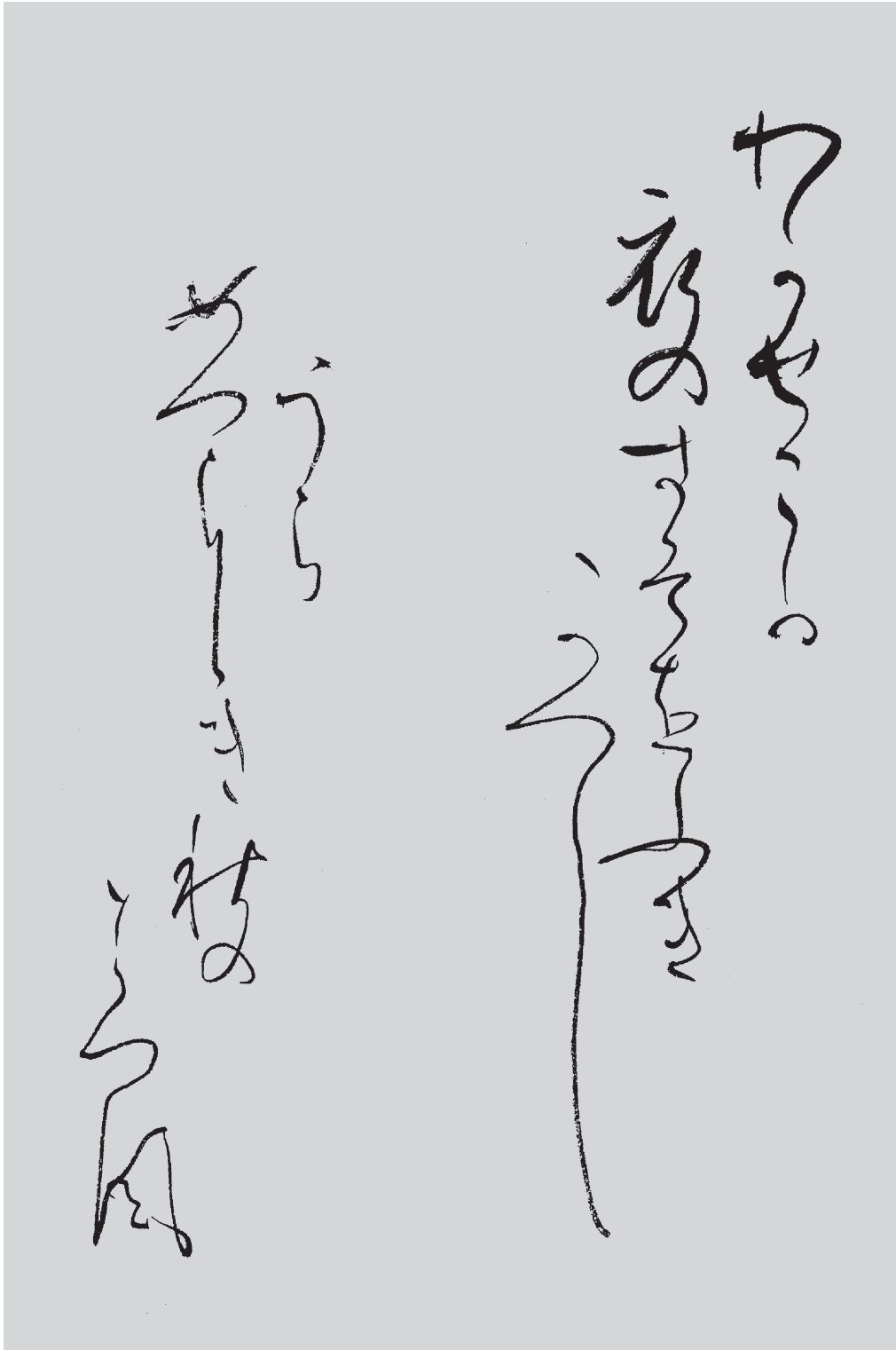


訳：興がわいたら、そこをそのままわが家とするだけのことさ。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

高塚竹堂先生書

わが背子が衣のすそをふきかへしうらめづらしき秋の初風(古今和歌集)

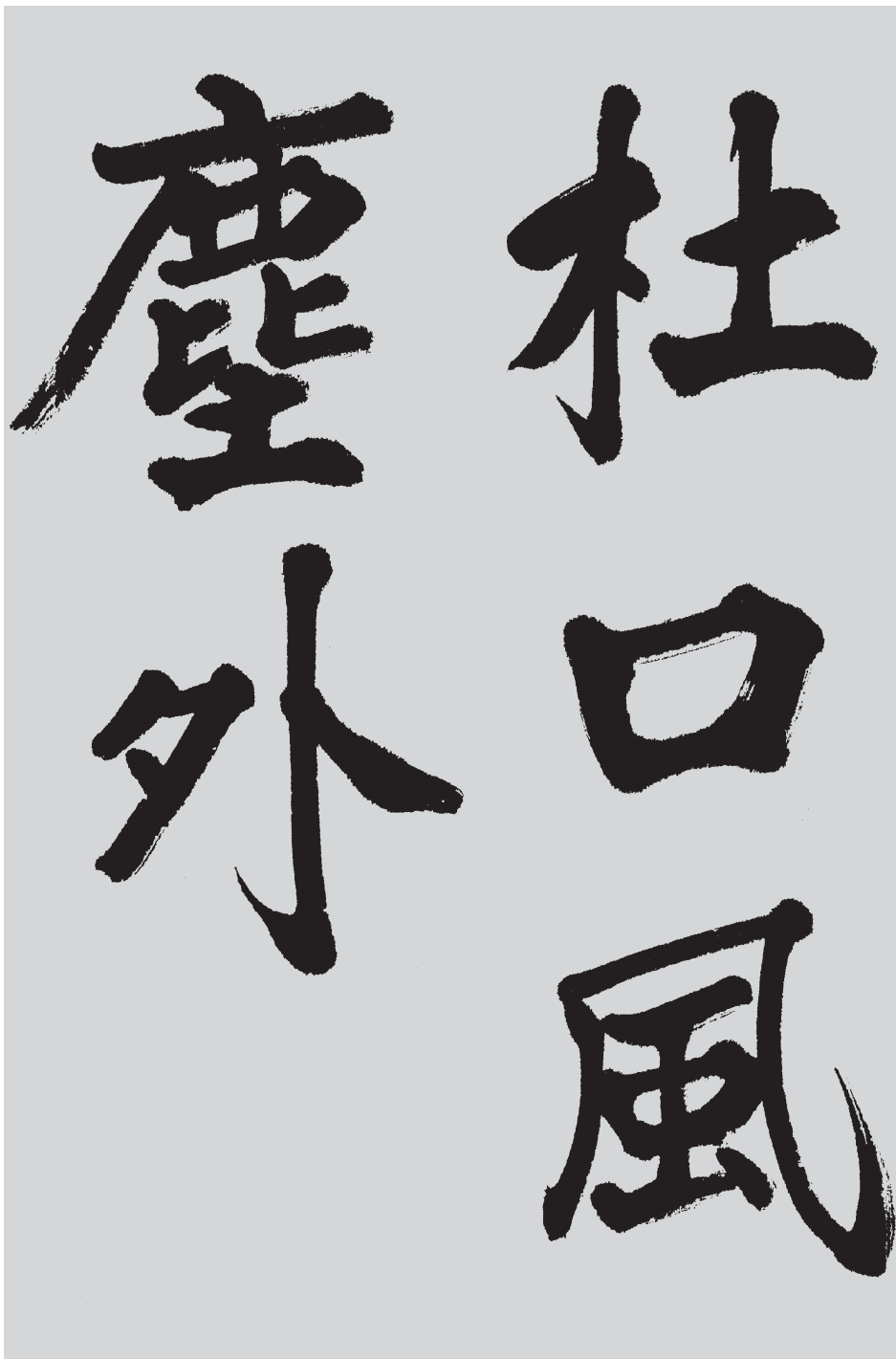


落款は「○○書」と調和を工夫し書き入れる。

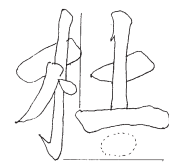
◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

平岡華雪先生書

口を杜^{くち}ず^と風塵^{ふうじん}の外^{ほか}(尤侗)
訳：世の俗事に関して言説せぬ。



〈少画の字の場合〉
少画の字と繁画の字を調和させるときは、少画の字を小さく、太めにすると釣り合う。なお布置も「口」の前後はば等間隔を意識するとよい。

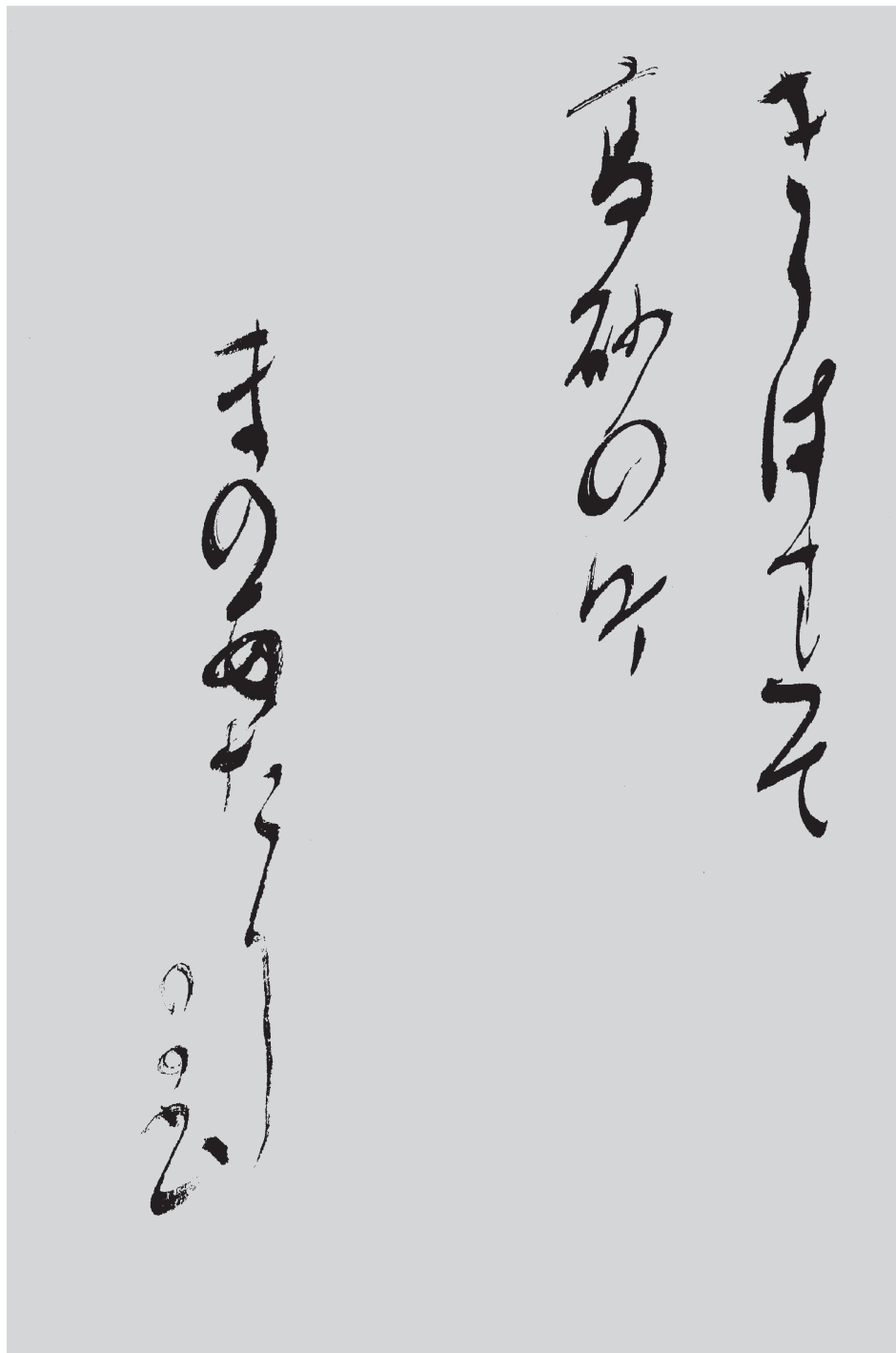


中心

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

平岡華雪先生書

霧晴れて高砂の町まのあたり（蕪村）
きりは連て高砂の町まのあたり



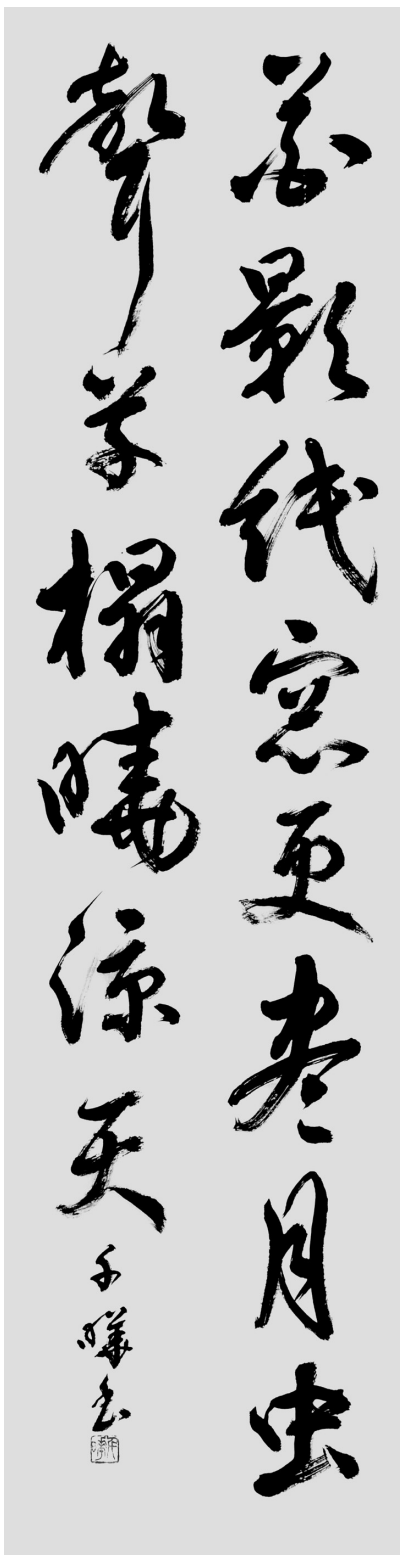
〈効果的に向けて〉

最初の五字連綿、休止の箇所を一つ工夫するとアクセントとして効果的。「高砂の町」も漸次、筆圧を加え強調させたい。この部分一つの山場として。左群は落款を含めた表出を有効的に。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

路川千擘先生書

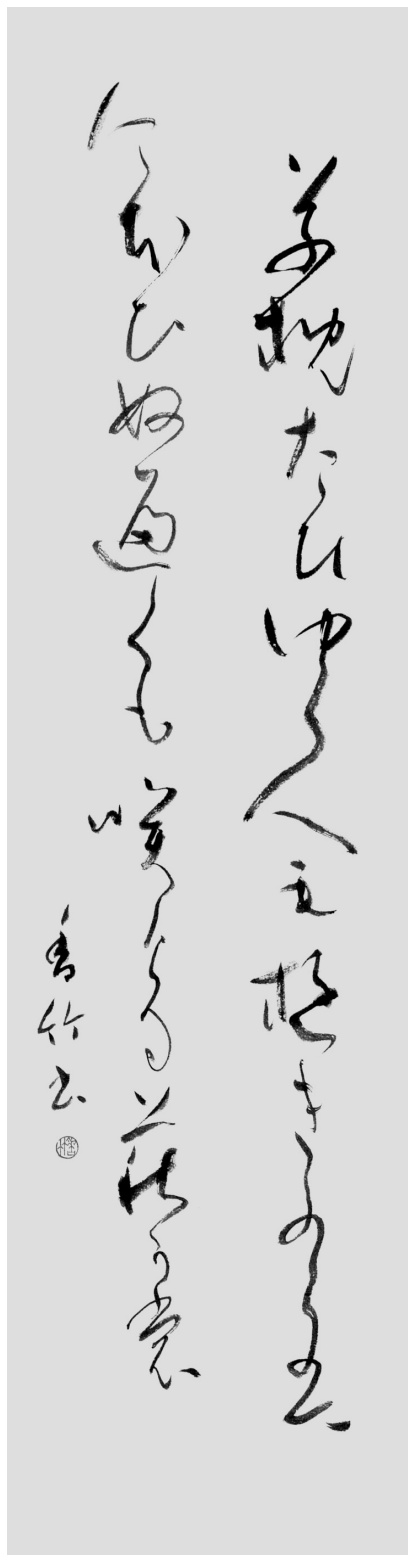
花影紙窓更盡月 虫聲草榻曉涼天 (鄭梁)
花影紙窓更盡の月、虫聲草榻曉涼の天。



訳：花の影が紙張の窓に映じたのは五更のつきる頃の月のせいで、虫の声が草のこしかけに聞えるのは夜明の涼しい頃であった。

青柳香竹先生書

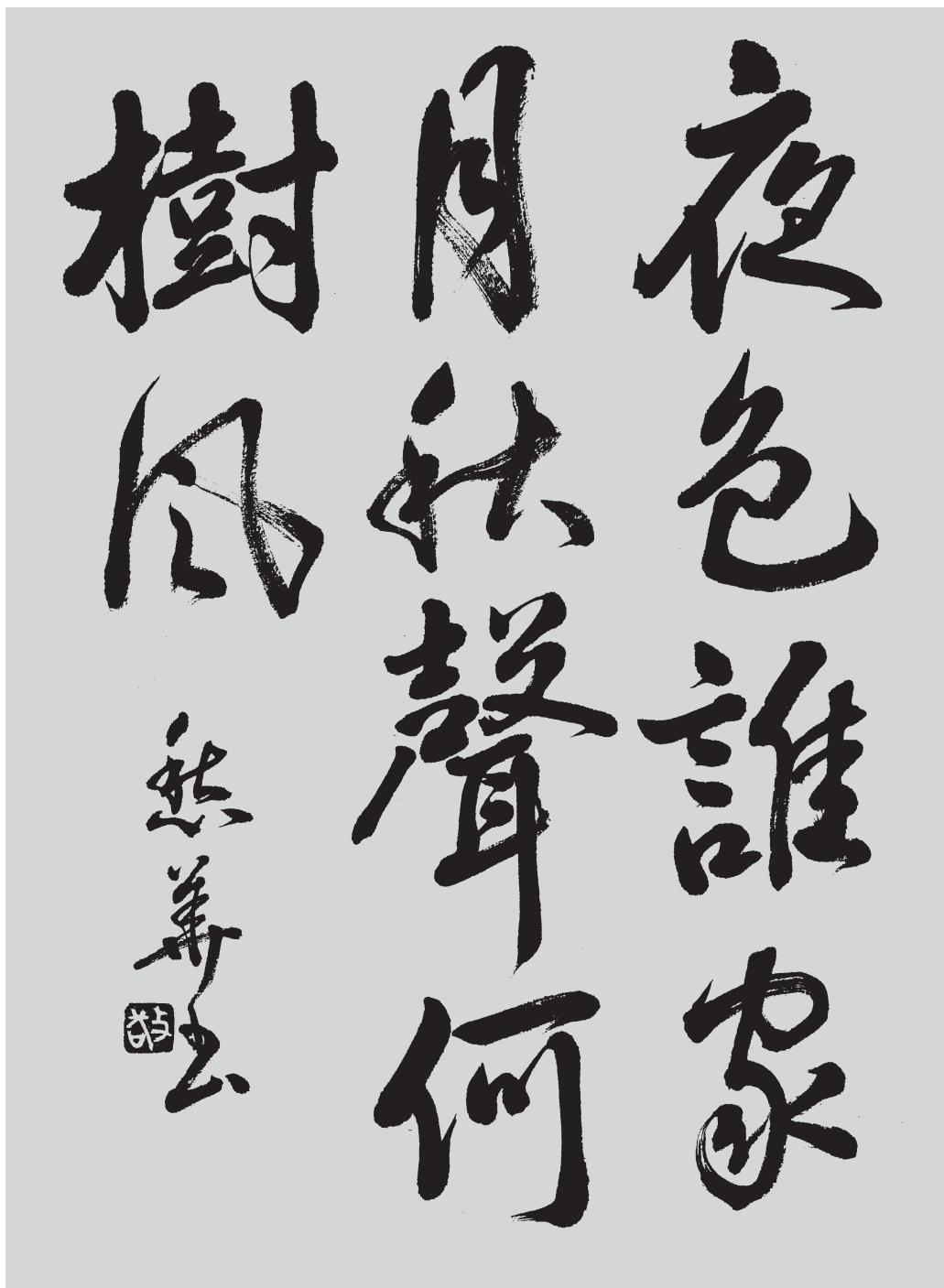
草枕旅行く人も行き触らばにはひぬべくも咲ける萩かも (万葉集 笠金村)
草枕たひゆく人も遊きふら盤に保ひぬ遍久も咲介る萩可裳



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

石田愁華先生書

夜色誰家月 秋聲何樹風（郭文涓）
夜色誰家の月、秋声何樹の風。

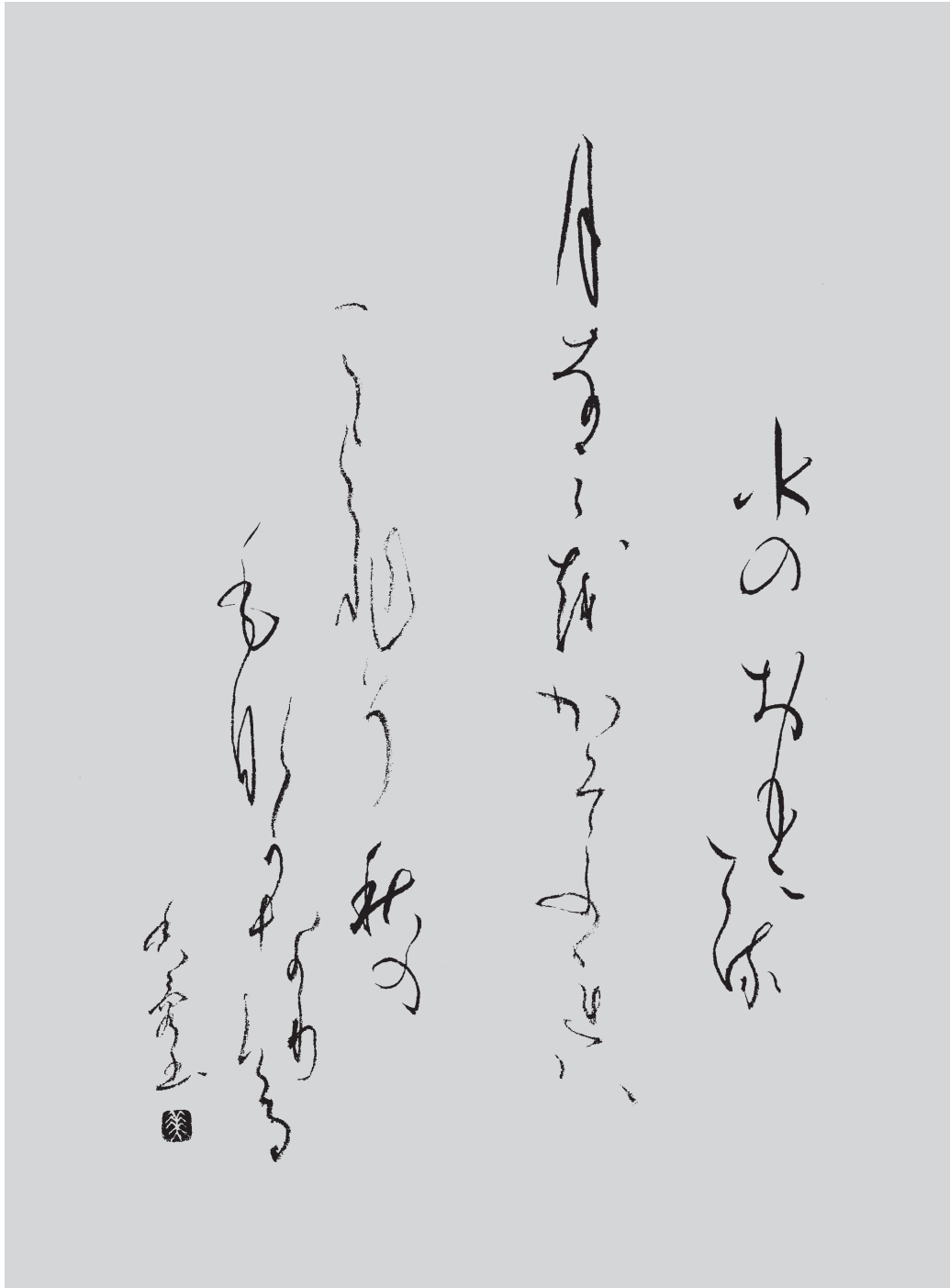


訳：夜のけしきのよいのは何人の家であろう、秋の音がするのは何れの木に吹く風であろう。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

川上香蓉先生書

水の面みづのおもにてる月つきなみを数かずふればこよひぞ秋あきのもなかなりける（拾遺和歌集 源順）
水のおもみづのおもにて流なが月つき奈な三さん越こかそふ連つら八はちここ与よ非ひ曾そ秋あきの毛も那な可か利り介ける



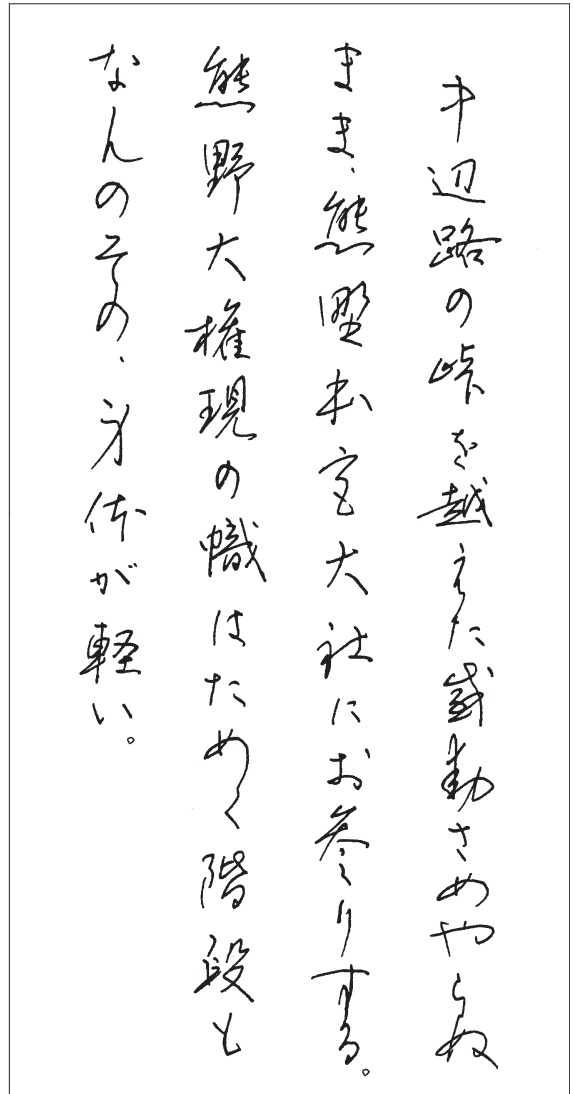
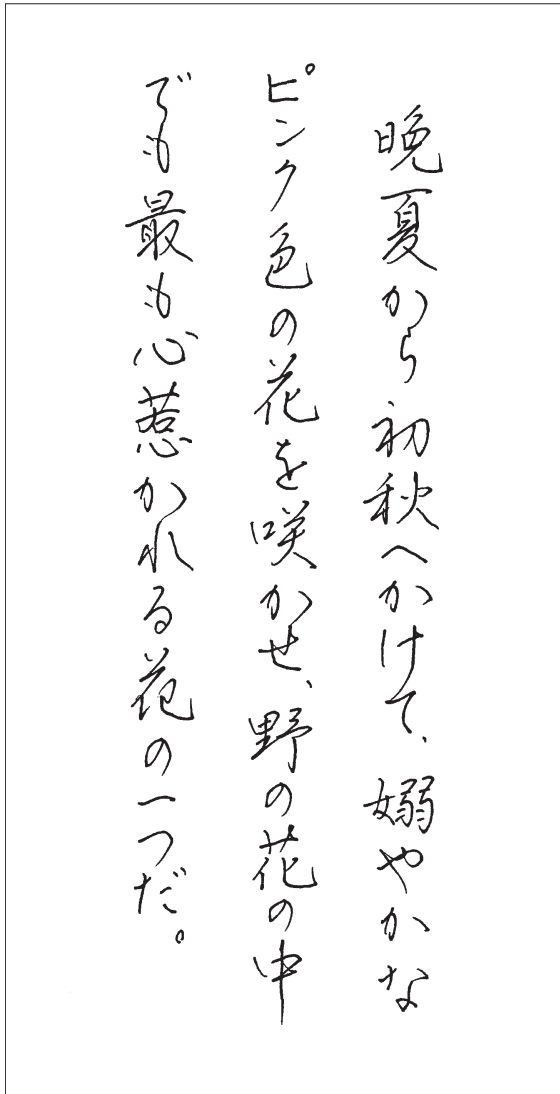
◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

赤木典子先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

中辺路の峠を越えた感動さめやらぬまま、熊野本宮大社にお参りする。熊野大権現の轍はためく階段もなんのその、身体が軽い。

『熊野古道』 高木美千子

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題2 (初段階以下)

晩夏から初秋へかけて、嬾やかなピンク色の花を咲かせ、野の花の中でも最も心惹かれる花の一つだ。

『柳宗民の雑草ノオト』

カワラナデシコ